



学校の喫煙問題を考える検討委の初会合＝県庁

煙害から児童を守れ

学校検討委が初会合

静岡

学校の禁煙教育の推進や受動喫煙対策を考える「学校における喫煙問題検討委員会」（事務局・

喫煙防止教育の状況を発表した委員の養護教諭は、保健室での相談事例を挙げながら、「喫煙の背景には生育歴や家庭環境などが大きくかわり、自己肯定感や自己有用感が低い子供が喫煙に手を染めやすい」と指摘。

県教委体育保健課）は十三日、県庁で初会合を開き、児童生徒を喫煙による健康被害から守るための協議をスタートさせた。全四回の会合を経て、検討内容をまとめて十月に県教育長に提言する。

鈴木善彦教育長は「全国的に学校敷地内全面喫煙禁止の動きも出てきた。効果的な喫煙防止教育や教職員の喫煙の在り

方について意見をうかがい、地域や家庭を巻き込んで進めたい」とあいさつした。

高校教諭は生徒の喫煙状況を説明し、「学校生活への無気力感など、奥には教育全体の問題も潜ん